

令和2年度 第2回 函南町地域公共交通会議 議事録(案)

日時 令和3年1月26日(火)

午後1時30分～

場所 函南町役場 大会議室

出席者 別紙出席者名簿参照

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 函南町循環バス運行計画について 資料1 説明

・説明

質疑、意見

原委員	<p>循環ルートの場合1ですが、右回りルートを通ったときに、ゲートウェイから136号バイパスに右折で出るようなルート図になっていますが、ここは物理的に右折できませんので別のルートになるのかなと思います。ご検討いただければと思います。</p> <p>道路管理者目線で見ると、このバス停はどうなのかなというところが何か所かあります。仁田駅前には駅前広場を使うのでしたらそんなに問題ないかもしれませんが、踏切の直近というのは望ましくないということと、仁田橋の手前、クリエイトさんのところ、この絵をそのまま見ると多分上り坂の途中に作ることでなくなってしまいますので、交差点直近の話は警察さんとの話もあろうかと思いますが、わりと急な上り坂の途中のバス停というのは基本的には避けたほうがいいのではないかと思います。詳細なバス停の位置の検討に当たりましてはそのあたりをもう少し詰めていただければと思います。</p>
事務局	<p>おっしゃられるとおり、道の駅から右回りのところですが、川の駅のほうに迂回して出ていかないとこのルートには出られないところがございますので、そちらについて右回りということでルートの選定のもう少し詳細なものを次回お示しができればと考えております。</p> <p>また、バス停につきましてはある程度町の拠点と商業施設に近いところで場所を落としたものでございます。具体的な設置位置につきましては交通事業者、警察、道路管理者と協議しながら、自治会等の意見調整というところもございまして、併せて進めていきたいと考えております。</p>
司会	<p>たたき台、素案という事務局の説明もございましたので、皆様のご意見をぜひいただければと思います。</p>
伊豆箱根バス	<p>今素案というお話もありましたが、私もそれは十分認識をした上で確認の意味でお伺いさせていただきたいと存じます。</p> <p>3月に協議会の予定がありというご説明をいただきましたが、このルートや運行については基本的には次回3月にこちらで審議、承認というスケジュールでよろしいですか。</p>

	<p>それから、非常に申し上げにくいのですが、ルートを選定に当たりましては既存の公共路線との競合を回避するということが今検討されていらっしゃるということでございます。こちらの場所については弊社で運行させていただいておりますが、この公共交通会議でも幾度となく議論していただいておりますとおり、こちらの路線については民間事業が単独として維持することが難しいということで、函南町様からは補助金をいただいて路線を維持しているという状況でございます。今回実証実験ですので本運行ということではございませんから、実証実験であればということはもちろんあるということは私どもも認識をしておりますが、一定の財政負担をしていただいているこの路線と競合することについて、影響があるとなった場合、現在の既存の路線と補助のあり方ですとか、今後の存続のあり方、維持の方法についてどのようにお考えなのか。今でなくてももちろん結構ですし、次回の協議会でも結構でございますので、もし何かございましたらお示し願えれば幸いと存じます。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおり、畑毛線につきましては函南町の補助路線ということで、函南町が一部補助をして運行していただいているというところでございます。</p> <p>案1につきまして重複区間がございます。そちらにつきまして重複して資金投入というところが懸念というところもございます。また課題というところでもこちらのほうでも見えております。そういった中で、案2というところで重複を避けた往復ルートをお示ししたところでございます。交通空白地域の方を救うというところが主な目的でございます。既存のバス路線のお客さんを取り合うということではなく、まずは交通空白地域の方々に交通手段をご提供させていただければというところでございまして、事務局のほうでも検討を進めているところでございます。</p>
司会	<p>今後そういう意見を入れた中でまた変わっていくということによろしいですか。</p>
事務局	<p>これから肉付けして、皆様に3月の時点で方向性も含めてお示しできればと考えております。</p>
山口委員	<p>この計画を見させていただきまして本当に事務局の方はご苦労されて素晴らしい計画案を作っていただいたものと思います。また一方、伊豆箱根バスの方が言われましたように、収益がどうしても上がらなければ町の財政負担につながっていくというところでもとても悩ましい問題にぶつかると思います。</p> <p>ここで提案というか、2年前、私が初めてこの会議に出たときにお伝えさせていただいたのですが、町の職員、非常勤の方すべて入れるとたしか400人を超すのではないかと思いますのですが、その通勤費が年間2000万かはっきりは忘れましたが、相当な通勤費が支払われている。マイカー通勤ですね。5人ほどがたしか地域公共交通を使って通勤されている。大半の方がマイカーで通勤されている。目の前に交通課長さんがおられますが、事故防止の観点、また地域公共交通を持続可能性のあるものとするためには一定数の利用者が必要だと思います。ですから、町の職員の皆様方は町民のまさにリーダーシップを発揮していただいて、自ら地域公共交通を利用する、それが私はこのバス運行路線を持続可能なものにして多くの人のお役に立てるのではないかと思います。</p> <p>また函南町のみならず、例えば田方農業高校とかさまざまな民間の会社もこの函南町の平場にはたくさんあります。そういった会社にもどうか地域公共交通を利用して通勤するように働きかけをぜひとも官民一体となって、私たち、この地域公共交通会議の委員も一緒になってそのように広報を広げることによって、私はこのバス路線というのが、先ほど伊豆箱根バスの方が懸念を表明されましたが、それは改善していけるのではないかと思います。</p> <p>それと、最後にこの実証実験ですが、やはり多くの方がこの路線を知るには一定期間の時間が必要になります。そしてその地域公共交通を利用する自らのライフスタイルに</p>

	<p>マッチするには相当な期間が必要なんですね。だから、2、3カ月程度の実証実験では効果が見えない。実証実験というのは1年から2年のスパンで多くの人がこの路線は便利だねと気づいて、そして自分のライフスタイルにマッチしていく。そうしたらそういうふうにシフトしていくと思うんです。ですから、その辺短期的に物を見ずに、中長期的な視点でぜひともこの素晴らしい計画案を実現していただくと、多くの町民、また観光客の方もとても喜ばれると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。私からは以上です。</p>
事務局	<p>大変貴重なご意見ありがとうございました。もちろん町としても町が一方向的にルートを決めたりダイヤ、本数を決めたりといった中ではニーズに対してなかなか対応しきれないという部分がありますので、こういった会議の中で委員の皆様方からのご意見、あるいは各地元でのご意見も踏まえながらできるだけ多くの方が利用していただけるような公共交通を構築していきたいと考えております。</p> <p>また、山口委員からアドバイスいただいた職員の通勤ももちろんこういったものができ上がって促進して使わなければ、使って初めて効果が出るというところがありますので、職員の利用も積極的に進めていきたいと思っております。また住民の皆さんが通勤や通学、お買い物、いろいろな生活の足として便利に使っていただくためには、ご指摘のとおり、周知期間というのは大変必要であって、そういったものも十分に取ながら、その方法も踏まえて十分にしっかりと対応していきたいと考えております。ありがとうございました。</p>
司会	<p>事務局からも山口委員からもありましたが、利用者のライフスタイルに合わせるということにつきまして非常に重要なことなのかなと思います。その変化が出てこないと公共交通の定着というのはなかなか難しいのではないかと思います。その辺のところはしっかりと考えていただければと思います。</p> <p>ほかには何かありますでしょうか。なければ、総合的なご意見として伊豆原委員から何かございましたらアドバイスをお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>先生のほうはミュートになっているみたいです。進行を進めていただいて、また後で総合的にいただきます。</p>
司会	<p>(1)の議題につきましては今皆様からいただいたようなご意見を踏まえまして、また事務局のほうでしっかりと揉んでいただくということで、お気づきの点がございましたら後日でも構いませんので、直接事務局へご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>

(2) 地域公共交通網形成計画に定められた事業の進捗状況について 資料2 説明

・説明

質疑、意見

高橋委員	<p>基本方針1で熱函道路にバス停を設置ということで進めているということですが、私も過去に伊豆箱根バスさんが熱海と大場駅の路線バスが動いているので、その有効利用という提案をさせていただきましたが、有効利用の中にその路線にバス停をつけられればそれでいいということではなくて、地域にどう利用できる利便性があるかということも提案させていただきます。</p> <p>今設置をしようとしているところは一番近い民家まで100mです。今設置しようとするバス停から熱海方向に300m行ったところにバス停が1つありますよね。ダイヤラン</p>
------	--

	<p>ドから行っている東海バスさんですかね、運行している新山というバス停があります。そのバス停の周りでも、一番近い民家が1軒ありますが、それに200mぐらい離れている。熱函道路は丹那盆地から見ますと高いところにありますので、住民はそのバス停に行くには上り坂を上っていかなければならない。今一番公共交通で困っている人というのは高齢者で足腰が弱い人です。そういうことを考えたときには、そういう人たちの利便性を考えた計画ということで、例えばこの路線バスをちょっと行政のほうで骨を折っていただいて、県道田原野線を抜けて熱函道路に抜ける、そういった路線の組み換えを働きかけていただければ、丹那の空白地はかなり解消される。</p> <p>それと同時に、丹那盆地には多分私の認識では、今変わっているかどうかわかりませんが、オラッチェはたしか第三セクターじゃなかったかなと思うんです。そういう資源があるのに、何でそこにバスを導入しようという働きかけがないのか。それは非常に疑問に思っています。デマンドや何かでやるよりも路線バスが入ることによって一般の人、あるいは観光客がそこに乗降できるというメリットがあるわけです。そういったものを考えた中でどれが一番いいかということをご皆さんに考えていただいて検討していただきたいと思っておりますし、今この場で安易に、そこに路線が走っているからそこにバス停をつければよいというだけの問題ではないと思っておりますので、これからの討議をお願いしたいと思っております。</p>
事務局	<p>大変貴重なご意見をありがとうございました。先ほどの基本方針1のところ、ただバス停を作って、はいそれで終わりというふうには考えておりません。一番早いというわけではないのですが、せっかく伊豆箱根バスさんの路線があつて、今協議を進めている中でバス停の設置というところもご検討いただいているところで、まずは既存の資源、ルートを使ってできるだけ利便性が上げられないか、足として使えるような路線が作れないかというところでまず一義的に動いているところで、ファミリーマートだけでなく、例えばきみちさんのところとか、そういったところにも作れないかというところで、そこは今協議をしているというところがあります。</p> <p>当然ながら盆地の中、オラッチェであるとか丹那断層であるとかいった地域資源もありますが、そこに降りられるかどうか。当然伊豆箱根バスさんの運行のダイヤもありますので、そういったところは改めて別途協議を進めさせていただきたいと思っておりますが、今は既存のものを使って少しでも利便性が上げられないかというところの調整をさせていただいて、またこれから盆地の中について新たに路線バスとするのかデマンドタクシーにするのか、方法はいろいろあるかと思っておりますので、まずはそういったところも含めてこれから検討していきたいというところではあります。現時点ではこの熱函道路、せっかく走っているバスを利用できないかというところの調整をしているというところでご理解いただけないかと思っております。</p>
高橋委員	<p>今既存の路線バスを活用ということでお話があったのですが、現在伊豆箱根バスさんはかなりの本数が回送で動いている。その回送車の何本かを路線バスとして丹那路線に運行できるように働きかけていただければもっと早く解決策が出てくるのではないかと考えています。検討していただきたいと思っております。</p>
伊豆箱根バス	<p>ただいま承りましたご意見ですが、実際には今三島の大場から熱海に向けて回送が何両か行っています。従来はそもそもこちらの当該区間は路線を引いておりませんので、回送で向かわせておりました。記憶が定かではありませんが、3年ほど前になると思っておりますが、この回送の車両を使って路線を引いて、今バスの運行を開始している。恐らく3年近くたっているかと思っております。</p> <p>それで、これまた函南町様のご意向も私どもとしてお踏まえして協議させていただければと存じておりますが、一部、事情をお話すると、回送の車両を実際に路線化する</p>

	<p>ということになると、基本的には路線バスというのは欠車ができません。要するに事業者の都合で運行しないということができませんので、必ずそのダイヤは運行しなくてはならないということが道路運送法で決められております。</p> <p>一方では、当然私どもとしましても熱海の地内においては笹尻を越えて営業所から1時間近く離れた場所で実車運行を行っているということがございますので、現地で車両が故障したり、あるいは事故に遭ったり正常な運行ができなかったときのために当然車両を確保しておく必要があるということで、結論を言うと回送をしている車両を全車両実車運行にするとすることは物理的に不可能ということで、今後私どもとしても今行っている運行の中でどれだけの実車運行が可能なのかということは、今ご意見もございましたとおり、函南町さんからのご意向もございますので、今後その協議についてはさせていただきたいと考えております。</p> <p>繰り返しになりますが、そういったときのために一定程度回送としておいて、現地で何かあったときには回送する予定であった車を充当させるべく予備的な車両を何両か残す必要もあるということもありますので、そういったことも踏まえた中で当社として可能な範囲の中の運行についての協議をさせていただければと思っております。現状、この席上でお返事できるとしますとこういったことになろうかなと思っております。以上です。</p>
司会	<p>ありがとうございます。事業者としては事業者のいろいろな事情もありますということだと思いますので、町と事務局としっかり接点を探していただければと個人的には思います。</p>
山口委員	<p>先ほど村上課長さんが言われたとおり、既存の地域公共交通をいかに有効活用するか、ここが国交省が一番示しているところであり、私たちのこの検討会議の趣旨であると思っております。そういう意味で、今丹那は高橋委員が言われましたように、確かに丹那の高齢者の方は熱函のバス停までなかなか行けない、そういったご苦勞はよくわかります。</p> <p>そこで、実は以前から申しておりますけれども、スクールバス、これは全国各地で路線バス化されております。路線バスにすることによって学生は無料バス券をいただく。そしてほかの一般乗降客は正規の運賃を払う、そういうことで今丹那盆地の中をそれぞれの集落がありますけれども、家の前にバス停があるのにそのバス停でバスに乗れない。これを改善すると相当丹那の方々には利便性が向上するのではないかと。</p> <p>それと、湯ートピアバスも年間3000万から3500万ぐらい町の税金を投入していると思いますが、これについても、例えばその地域から一旦役場の前で乗降を認めてもらう。無料運行ですね。そうしたら病院に行かれる方もとても便利で、時間帯というのは当然日にちも限られておりますけれども、1つでも既存の交通体系をいかに有効に使うか、そうすることによって丹那の方々の生活の質の向上につながるのではないかと。</p> <p>先ほど伊豆箱根バスの方が言われたように、確かにダイヤの編成の中で回送バスのすべてを止めるというのは不可能であるということは私も承知しております。ただ、一定数のバスは当然停められるわけです。</p> <p>伊豆箱根の方に質問ですが、複数の市町を跨ぐ路線につきましても国から補助金が1/2出ると思うのですが、熱海路線については補助金はもらっているのですか。</p>
伊豆箱根バス	<p>基本的には当該路線は路線補助の対象にはなっておりません。これについては、今日委員の皆さんもいらっしゃいますし、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、基本的には民間でやっている路線の維持が困難であると民間事業者が判断した場合、これを県の協議会に申し出て、ここで協議をして整った時点で初めて補助対象となるという仕組みでございます。</p>

	<p>これについては現状、まだ運行を開始して期間が相当数経過しておりませんし、この状況下で、この路線だけでこの車両を運用しているわけではございません。先ほど社会福祉協議会の会長様からもご指摘があったとおり、あくまで熱海の市内の路線に向けて運用する車両をこの路線に使用しているということでございますので、技術的な収支だけをこの路線で算出することは現状いたしておりません。</p> <p>それからもう1点、国、県から補助をいただくということになりますと、輸送密度と言いまして、一定程度補助をいただくには条件がございます。この条件を満たす、ちょっと難しいのですが、乗っていただけない路線であるがために補助を申請しなくてはならないのですが、乗っていただけていない路線の中にも一定の乗降がなければ維持すべき路線と認められなければ補助の対象にしていただけないという仕組みでございますので、こういった経緯からこの路線については現状私どもとしては補助申請をいたしていないというのが現状でございます。</p>
山口委員	<p>ありがとうございます。ここに国交省の資料があるのですが、1日当たりの計画運行回数が3回以上のもの、輸送量が1日当たり15人から150人見込まれること、これ、該当すると思うんです。朝2本、夕方1本運行されていますよね。ですから、そのようにせっかく国の制度で1/2の補助率がありますので、収益を考えるのは当然民間会社として当たり前の話です。ですから、収益の厳しいところはまず税金に頼る前に国の補助金を請求するということによってこの路線が持続可能なものになるのではないかと。また今後観光客の方も熱函道路を使うバスに乗ることによって、熱海に年間今までは850万人ほど観光客が来ていたわけで、この一部が函南町、また丹那のほうに遊びに来ていただけるように、そういうきっかけづくりになるかと思えます。ぜひともそういう短視眼的に見ずに、大局的利益を見て、どうこの函南町を豊かな住みよい町にしていくか、これは地域公共交通の担う大きな責務だと思います。ぜひとも伊豆箱根バスには前向きにご検討いただいて、よろしくお願ひしたいと思います。私からは以上です。</p>
司会	<p>事業者さんのご意見、また地域のご意見等いろいろございます。こういった内容につきましてすり合わせをしながら、できるだけいい公共交通体系を作っていきたいと考えておりますので、この件につきましてはこのぐらいでということで、何かあればお聞きいたしますが、よろしいでしょうか。</p>
伊豆箱根バス	<p>ただいまご指摘がありましたので、誤解がないようにお話しさせていただきます。</p> <p>この路線については、運行路線が確かに3回でございます。輸送人員についても補助要件を満たすかどうかという問題になるのですが、繰り返しになりますが、これについて、この路線が維持可能かどうか、不能かどうかというふうに判断して申告するのは事業者側であります。この路線については、先ほどから申し上げておきますとおり、この路線単独で維持をするべきかどうかという視点ではございません。あくまで熱海に乗り入れている車両をそのままこの路線に充当し、一定の利便を確保するという形で進んでおりますので、たとえこの路線単体が立ちいかないということになったとしても、車両は実際熱海に持っていく必要はございますので、そういった判断から今のところ当社のほうではこの路線を財政投入していただいてまで維持をしなくてはならない状況ではないということだけは委員の皆様にご理解いただけるようにあえて申し上げさせていただきます。以上でございます。</p>
司会	<p>わかりました。いろいろとクリアしなければならぬことがあろうかと思っておりますので、こういった形で皆様のご意見をいただけるということが非常に重要ではないかと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。</p> <p>ほかの項目につきまして何かありますでしょうか。</p>
八木戸委員	<p>先ほどのバス停の件ですが、これにつきましては私も前の会議のときに伊豆箱根さん</p>

	<p>のほうでは回送するバスがある、それをうまく利用できないかということで話が出て、それからバスを走らせるにはどうする、バス停がなければ困るということでバス停をという形で協議になったかなと思います。ですから、伊豆箱根さんのほうで事業性、事業として成り立つかどうか、その辺もちゃんとすり合わせをしなければ、バス停を作ることだけ話をしてもいかんのかなと思います。回送のバスを何とか有効利用できないかという話でバス停が進んできたということだと思いますので、その辺事業者さんとして採算性も考えなければいけないだろうし、また利便性ということで考えなければいけない。その辺をもう一度しっかりとすり合わせをしないとこれは進められないのではないかなと思います。</p> <p>もう1点、資料の裏側の自主運行、実際に丹那地区の自主運行と、それからパサディナの福祉自動車、これも具体的にどのようなことをなさっていて、実際的にはどうなのかという話を聞かせていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>丹那区の自主運行タクシーですが、こちらにつきまして丹那区さん、また山間部の自治会の方々共同で自主運行事業ということで小型のバスを走らせていた経緯がございます。ただ、利用者さんが山間地のほうで見込めないというところがございます。自治会さんが丹那区さん単独に減っております。丹那区さんの自主運行タクシーということで、丹那区さんがタクシー事業者さんに事業委託をしまして運行してもらっているような事業でございます。函南町としましては、こちらの事業に対して年間6万円の補助をしておるところでございます。</p> <p>またパサディナ区の福祉自動車につきましては、昨年度、社協さん主導のもと、高齢者の移動支援というところを念頭に始めた事業でございまして、こちらはパサディナ区さんがバンをリースで購入しまして、そちらを自治会のボランティア運転手さんが運転をしているというところがございます。パサディナ区内はもちろんですけれども、市街地から離れているところがございますので、そちらに定期的に運行して足の便がない方々を連れていっているところがございます。こちらにつきましては、リース代等もかかっておりますので、函南町としまして年間10万円の補助をしているというところがございます。</p> <p>また利用者数につきましての数値は今手元に資料がございませんので、次回お示しできればと考えておりますが、いかがでしょうか。</p>
八木戸委員	<p>ありがとうございます。公共交通につきましては今までも実証実験をやったりして、伊豆箱根さんも路線バスの中でニーズを把握するという形でアンケートも何回か取っておられます。そういったことで、本当にニーズに応えられるのかどうかということを考えて、自主的に丹那地区とかパサディナさんとか、こういったところのニーズから出てくる、そういうものに公共交通というのは応えていく必要があるのではないかと強く感じました。今実際にやっておられることをお聞きしたということです。また利用状況もお話しいただければと思います。以上です。</p>
司会	<p>ありがとうございます。既存のものを利用するという点については、今始まったばかりの話で、これからのことで可能性を探っていくというところだと思います。ぜひ皆さんからのご意見をいただきながら前向きに進めていければなど。また地域で頑張っている自主運行事業等につきましてもぜひ育てていきながら、町としても支援ができることはしていくというような、いろいろな形のものがあると思いますので、その辺につきましてご意見をいただきましてありがとうございます。</p>
山口委員	<p>先ほど私が伊豆箱根バスに要望したことについて誤解があるようなので、確認しておきます。</p> <p>私は伊豆箱根が回送バスを山間部に停めることによって、何らかの経費負担があるの</p>

	<p>であるなら、経営上少しでも何かいい知恵がないかと考えてこのような提案を先ほどさせてただただけで、伊豆箱根バスさんからの説明では、熱海路線に入っていくだけの回送ですよ。ですから必要な回送として運行しているので何ら経費、これは必要経費であるというお考えであるんですね。ですから、山間部にバスを停めることについて何ら経費は発生しないという話ですね。それが1つ。</p> <p>それと、山間部にバス停を置くことによって山間部の方々の利便性が上がる、これがメリット。もう1つは回送で走らせているだけだったら、町長が言われていましたけれども、空気を運んでいるだけでは一銭の得にもならないです。民間企業として利益を上げて何ぼのもですよ。ですから、あそこにバス停を置くことによって山間部の方々が利用していただくことによって収益がそこに生まれてくる。また観光客もそのバス路線を使うことにつながっていくと思うんです。そういう意味でも大局的な利益を考えて、今後前向きに取り組んでいただきたいということをお話ししたわけですよ。ちょっと経費という面で誤解された方がおられたみたいなので補足しておきます。以上です。</p>
司会	<p>それでは、この件につきましてはこの程度で、伊豆原先生はつながっていますか。それでは先生、次第の1と2につきまして先生としてのご意見をいただければと思います。よろしくお願いします。</p>
伊豆原委員	<p>大変いいご意見をいただいて感銘しているのですが、まず函南町の循環バスの議題1のほうですが、3ページにあるように、これから検討していかなければいけないことがものすごくたくさんあるんです。今年の11月からということで行くと、あと10カ月しかない。その前に申請しなければいけないということになっていくと、このところは全部事務局が整理して、調整も全部やらなければいけないということになってくると大変タイトなスケジュールになります。ですから、ここはぜひ関係の皆さんは協力をお願いするしかないと思うんです。特に事業者の皆さん、どなたが運行するかということも全部含めてやっていかなければいけないわけですよ。そういう意味で、事務局は大変な努力をしますが、委員の皆さんにぜひこのところをご理解いただいているいろいろな形でサポートをしていただけると大変ありがたいと思います。これは今年の11月運行開始ということで行くスケジュールを本当に守ろうとすると大変な事業をやることになるかと思うので、ぜひよろしくお願いします。特に支局の皆さんには相談に乗っていただくことがたくさんあると思いますので、それもお願いしておきたいです。よろしくお願いします。</p> <p>これを実証運行することによって住民の皆さんがどう評価していただけるかというあたりがすごく大切になると思います。ぜひそのあたりも考えていく必要があるのかなと思います。先ほどバス停を作っただけでは意味がないとおっしゃっていたのはまさにそのとおりで、走らせるだけでは意味がなくて、いかに皆さんがいい取り組みだと思っていただけるかを評価しなければいけないわけでありまして、走らせればいいのかというわけではないんですね。ぜひそこらあたりを一緒になって支援していただくと大変ありがたいと思います。それが1つ目です。</p> <p>それから2つ目の事業の進捗状況については、昨年の夏に公共交通網形成計画ということでこの会議で作って、その中で事業の概要ということで方針に基づいた全部で15の事業が挙げてあります。今日いただいたご意見はその事業に関連するところがいっぱいあるわけでございまして、ぜひ事務局にお願いしたいのが、この事業ごとにやっているのか、それからどこまで今来ているのか、そのあたりを、今日は無理ですが、3月にはこの事業ごとに整理をしていただくと皆さんの今日のご意見がうまく反映できるのではないかと思いますので、そのあたりは事務局のほうにお願いします。</p> <p>ご意見も、見ていただいて、こういう事業をやっているよということを確認していた</p>

	だいてご発言いただいてサポートしていただけると大変ありがたいと思います。私もそのようにアドバイスしたいと思います。よろしくお願いいたします。以上です。
司会	伊豆原委員、ありがとうございます。今委員から話がありました。今日出席いただいておられます各種団体、各種機関の皆様には今後この事業の実現に向けましてご理解とご協力、アドバイス、ご助言をいただくことになろうかと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。 また事務局につきましては、計画に沿ったような形のまとめをしていただければと思います。

(3) 高齢者移動支援のためのデマンドタクシーの運行計画について 資料3 説明

・説明

質疑、意見

風岡委員	これから詳細が詰まってくるかと思うのですが、何点かお願いがございます。基本はこれは道路運送法 21 条の運行でやられるということでいいのでしょうか。あとは、区域は函南町内のみで考えていらっしゃるのか。デマンドタクシーなものですから町内のタクシー事業者さんのほう、これをやるよというところは皆さん合意を得ていただいた上で進めていただきたいというところ。あとは、実証運行になると思うのですが、本格運行を今後考えられるに当たって、アンケートですとかデータ取りを考えながら計画を進めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。
事務局	ご指摘のとおり、21 条で実証運行を実施することを考えております。運行区域については町内で考えております。また、今後も事業者の皆様とご相談をしながら本格運行に向けて必要なことにつきましてもまたご相談をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
司会	本日はご紹介といたしますが、皆様こういう計画がありますということの説明というような意味合いで捉えていただければ結構かなと思います。
伊豆箱根バス	1 点だけ確認させてください。先ほど循環バスのご説明がありました。いずれもこれは来年度ということで、桑原とか奴田場は全く別の区域になるのですが、柏谷のあたりについては、仮に来年度であれば両方同時になるということでしょうか。これはこれでやるし、循環バスも循環バスで並行して 2 つの実証実験をこの地区で行うということをお考えなのかどうか。もしお考えがあればお聞かせください。
事務局	おっしゃるとおり、城山区が重複しているところがございます。これについてもバスの運行計画を確認しながら、住民の皆様にご相談しながら進めていくことを考えておりまして、バスのほうの路線で住民の皆様がご了解いただけるような状況であれば福祉課のほうの施策が不要になる場合もございますし、今のところ住民の皆様のニーズだと坂が、買い物で行けても、帰りが持ってこれないというようなところがあり、城山区内のボランティアの皆様が城山区域内を送迎するという話が出たりという状況がありますので、詳細については城山区の皆様と話し合いを進めてまいりたいと考えております。
司会	こちらにつきましてははまだこれから詳細を調整していくという形でご認識をいただければと思います。 伊豆原先生から何かご意見はございますでしょうか。
伊豆原委員	この事業が、考え方で、計画の空白地への対応という 14 番目に事業が挙げてありま

	<p>すが、この事業の位置づけだということで解釈しておければよろしいですかというのが1つです。</p> <p>もしそうだとするならば、地域公共交通会議にその都度報告していただく。先ほど静岡支局の風岡さんがおっしゃったのですが、いろいろな検討事項やいろいろなことが全部この地域公共交通会議でご報告なり協議をしていただくということが必要になるのではないかと思いますので、ぜひそこあたりは事務局の中で総務課だとか福祉課だという垣根を取り払って、お互いに情報交換しながらこの地域公共交通会議に報告なり協議していただけると、よりいい方向に行くのではないかと思いますので、よろしく願います。</p>
--	---

(4) 継続困難路線について **資料 4 説明**

・伊豆箱根バス株式会社説明

質疑、意見

事務局	事務局としましても、生活路線ということで説明がございましたが、病院への足、商業施設への足ということで維持が必要な路線と考えておりますが、ここで皆様のご意見を伺いたいところでございます。
司会	説明がございましたが、委員の皆さんのご意見、ご質問等はございますでしょうか。なければ伊豆原委員からご意見をいただきたいと思ひます。
伊豆原委員	今お話がありましたように、函南町と三島市を結ぶ移動ということを考えていくと、この路線というのは重要な路線であり、必要不可欠な路線だと私は思ひます。そういう意味では単独で困難ということになると何らかの形で市町の皆さんからの支援が必要になるということだと思ひます。ご意見をいただけたらと思ひます。私は必要な路線だと認識しております。
司会	ありがとうございます。何かありますでしょうか。
原委員	<p>この路線、先ほど伊豆原先生もおっしゃいましたが、必要でないという人はあまりいないのではないかと思ひます。必要な路線だと思ひますので、単独継続困難な状況の中ではいろいろな補助等をいただいた上で構わないので、ぜひ維持していただければと思ひます。</p> <p>1つお願いですが、当然伊豆箱根バスさんは状況を把握していると思うのですが、JRさんとの乗り継ぎが悪い便がときどきございますので、2分待ちだったり、着くと同時にJRさんが出てしまふとか、バスの運行自体の定時性の話等もあろうかと思ひますが、乗り継ぎやすさを実時間の中でもうちょっと改善していただけると利用者増につながる可能性があるのではないかと思ひます。バスのダイヤ、ほとんどが5分刻み、10分刻みのパターンダイヤに近いような運行を目指した中の車両運用だとは思ひますが、JRさんのダイヤともう少しすり合せしていただければなというところが多々見受けられます。函南駅に電車が着いてから3分後に出るというのは高齢の方にはちょっと厳しい待ち時間かなというところもありますので、そのあたりも配慮してもらいながら、あと、JRさんはたまに運行が遅延していることもありますので、若干出発を待てる状況がどこまでできるかという問題もあろうかと思ひますが、若干の現場での柔軟な対応等がもし可能でしたら、そのあたりを配慮しながら少しでも利用者の利便性につながるような実運行をしていただければと個人的には思ひしておりますので、ご検討いただければと思ひます。</p>

伊豆箱根バス	<p>ご指摘ありがとうございます。この3月にもJRさんはダイヤ改正を予定していただき、前回のダイヤ改正でも私どもでもできる場所についてはダイヤの調整はやらせていただいております。どうしても車両運用上そのような運行ができないことと、それから、今まさにご指摘がありましたとおり実時間で合わないということが日によったり天候、いろいろな状況で生じているということも承知しております。当然駅を結節している路線でございますので、今後についてもこの3月のダイヤ改正も踏まえまして、あるいは実運行の実態の時間を踏まえてできることの対応は今後もしっかり検討させていただければと思います。ご指摘ありがとうございます。</p>
山口委員	<p>私のほうから、原委員が言われたことと重複しますが、私、5年前に伊豆箱根バスにいたときにそれを指摘しているんですね。バスのダイヤが電車で連動していない。電車が着いたと同時にバスが発車していくんですね。当時私、乗客の人が怒っているのを耳にして、それをダイヤを担当している部署にはお伝えしたのですが、いまだに直っていない。これが実情です。ですから、伊豆箱根バスはしっかり顧客ニーズにマッチしたダイヤをぜひとも修正していただきたいです。</p> <p>私がいた当時、運用で5分遅らせて運行しますと営業所の所長からそのような回答をいただきましたが、バスの運転手に残念ながら徹底されていない。ですから、電車が着いた。ほどなくバスが出ていく。こういうのを私は過去何度も見ております。今現在においてもそうです。お客様に乗ってもらって収益を得ている会社なんですから、もっとそこはしっかりお客様を大事にさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。以上です。</p>
司会	<p>ありがとうございます。こちらの案件につきましては、皆様のご意見を伺いまして、継続が必要であるというご意見が多数出ております。これらにつきまして今後事務局につきましては後日県のほうに報告等をしていただければと思いますので、よろしく願いします。</p> <p>これにつきましてはこれで終わりにさせていただきたいと思います。</p> <p>以上をもちまして本日予定しておりました議事はすべて終了いたしました。</p>

4 その他

鈴木委員	<p>函南タクシーの鈴木と申します。日ごろはタクシー行政につきまして大変なご理解とご協力を賜り深く感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>函南タクシー当社というよりは業界からのお願いということでお話をさせていただければと、皆さん大変貴重なお時間をお借りしますので、手短にお話をさせていただきたいと思っております。</p> <p>今こちらにバスの方もいらっしゃいますが、タクシーも新型コロナウイルス感染症の関係で大変な需要減が今現在も続いております。簡単に言いますと、昨年の2月ごろから始まりまして、4月、5月には売上が対前年比マイナス70%です。そこから少し盛り返しはしてきましたが、11月、12月のコロナの感染者数の増加、そしてまた1月の関東方面における緊急事態宣言で、今現在もこの1月で業界全体としてマイナス50%を切るような、そんな状況に置かれております。</p> <p>私のほうから2点お話を申し上げます。町民の皆さんがバス、タクシーは乗合であるということで、コロナに感染しやすいのではないかと誤解を受けるところもあろうかと思っております。バス業界さんもそうなのですが、我々タクシー業界もコロナ感染症対策に万全の対策を期して、簡単に言いますと飛沫感染シートの</p>
------	---

	<p>設置、乗務員のマスクの着用、またマスクをしていないお客様に対してのマスクの配布、そういったことも感染を広げないため、乗務員もかからないために努力している次第でございますので、ぜひ函南町さんにおかれましては、公共交通が安心・安全ですよといったことのPRを広報機関を使ってお知らせ願えないかというのが1点でございます。</p> <p>もう1点につきましては、私ども、バスもタクシーもこんな状況に置かれていますので、第三次補正予算も決まって新型コロナウイルスの地方創生臨時交付金があるということですので、実現できるかどうかわかりませんが、需要増につながるような補助金の交付をしていただければ、タクシー事業者、バス事業者も少しは息がつくのかなと思いますので、お願いばかりではございますが、ぜひその辺をご検討いただきたくお願い申し上げます。以上でございます。</p>
事務局	<p>貴重な意見をありがとうございます。コロナ対策等に積極的に取り組まれておられるということで、PRにつきましても町のほうも協力をして何らかの形で広報等周知ができればと思いましたので、検討を進めていきたいと思えます。</p> <p>また、地方創生臨時交付金につきましては財政部局とよく話をしながら検討できればと思っております。以上になります。</p>
司会	<p>今事務局からありましたけれども、行政としてできることとできないこと等がございます。タクシー、バス、交通事業者さんだけではなくて、ほかの事業者さんも本当にコロナの対策をした中で何とか今事業を継続しているということは十分承知をしております。町としてお約束することはなかなかこの場ではできないものですから、またいろいろと町としてできることを検討しながらしっかりと対応できることはしていきたいということで、お気持ちと、また切実な状況、それは承りましたので、そういうことでご了承いただきたいと思えます。</p>
伊豆箱根鉄道	<p>今タクシー業界さんのほうの状況ということで、このコロナを受けて非常に厳しい状況があるのでぜひ行政さんのご支援をというところがありましたものですから、これに口添えするような形で鉄道事業者からも喫緊の状況を報告させていただきます。</p> <p>皆さんに大変ご愛顧いただいている駿豆線線のほうですが、非常に影響を受けておまして、定期外のお客様、観光で利用されるお客様が定期外になるのですが、こちらのお客様が直近でも前年の約6割までしか回復していないという状況がございます。これに対しまして、定期のお客様の回復度は前年に比べて90%弱ということで、定期外のお客様に比べると定期のお客様の回復というのは大きいものがあります。これは当然ながら毎日の通勤とか通学に使われるということで、一時はすごく落ち込んだのですが、回復してきている。</p> <p>ということは、観光のお客様にももちろんご利用いただくように頑張っているのですが、先ほど山口委員からもお話がありました、日ごろ通勤とか通学にぜひ公共交通を利用していただけるように行政さんのほうからもぜひPR、今はコロナの時期で、今この時期はなかなか厳しいかもしれませんが、コロナが一段落ついたらそちらの方向に環境面からもシフトしていけるようにお口添えいただけると大変ありがたいと思っております。せっかくの機会でございます。発言させていただきました。ありがとうございます。</p>
司会	<p>ありがとうございます。交通事業者さんの厳しい状況というのは、先ほども言いましたが承知をしております。町として本当にできることはさせていただきたいと思えますので、そういう形でご了承いただきたいと思えます。</p>
山田委員	<p>資料3の中でデマンドタクシーのことが話されましたが、事業の概要ということでご説明になりましたが、例えば運行日を平日のみにするのか、土日、あるいは年末年始を運休にするとか、高齢者が障害を持っている人で一人で乗車することができない、こ</p>

	<p>ういうときは必ず付き添いの人が必要なのかというようなこと、きめ細かいことをこれから教えていただいて、よりよい交通の足になっていければいいと思いますので、ぜひそういう細かいところもご検討願いたいと思います。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。今後検討の中で、今いただいた意見についても検討してまいりたいと思います。</p>
鈴木委員	<p>教えてほしいのですが、今のデマンドタクシーに関連した質問ですが、今日最初に循環バスの話をされて、大体函南町内のどの辺か、路線バスはこんなふうにあるというのがある程度見えてきました。そうすると、函南町は小さい地区もございまして、路線バスに引っかけたところもある。いわゆる空白地区がどうしても出る。そのときに、実は今日資料4のときにデマンドタクシーというキーワードがありまして、もしかしたらこれが空白地域を救ってくれるようなツールになるのではないかと考えて、意見には書いてきたのですが、ただ、読むと手を挙げた3つの地区だけが今回対象だというお話になっています。恐らく小さい地区、交通空白地区というのは平場のほうでももっともって、山のほうだとか、あるのではないかと考えているのですが、実証試験は3つの区でいいと思うのですが、それから先、町内全域に平等に、同じように皆さんいっぱいいるわけですから、そういう方々にどの程度広げていく考えがあるのかないのかということも含めて、今後のことは次回以降聞けばいいかなと考えていたのですが、とりあえず3地区だけではないよということをお聞かせいただければと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。この3地区につきましては、先ほど申し上げましたように住民の皆様から要望があつて、このような課題があるということで、この3つ以外にもパサディナ区様からもご相談がありまして、パサディナ区さんはどのような解決方法をとったときに、ご自分たちでボランティアでというようなお話がありまして、先進地域の実施している状況をお伝えしながら相談に乗りながらこのような形となりました。</p> <p>地域の住民の皆様のお考え、またその地域の社会資源ですとか特性に合わせた形で、勉強会につきましては自治会単位でそこに合ったやり方を検討しているところでございます。</p> <p>この3つの地区につきましては今回このようなデマンドタクシーというような方向で定まってきているということになります。今後、実証運行を実施し、その後につきましてはほかの自治会のほうで要望がありましたらまた検討するという形になるかと思っておりますが、今後につきましてはまた検討しながらというふうに考えております。</p> <p>とにかく住民主体ということで、乗降場所ですとかどんな方がというようなことも実は住民の皆様にご協力していただいたり協力していただいているという状況でございますので、住民の皆様のご協力なしではこれが実施できないということもございまして、要望があったところからお話し合いを始めたいと考えておりますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>話はわかるのですが、例えばこれ以外の区であっても具体的な運行のやり方だとか、料金をどのようにするのかということまでわからないとなかなか手が挙げづらいのかなと思います。ですから、ぜひそういうものをなるべく早く示していただければ、これ以外の区についても、高齢化が我々が思っている以上に進んでいるものから、先ほどこれを見ましたら平成29年度に手を挙げたという話ですが、それからもう数年たっているわけです。そうすると状況も変わってきますので、ぜひその辺もうまくフォローしながら進めていただければと思います。以上です。意見です。</p>
司会	<p>ありがとうございます。今ここで挙がっているところ以外でも、鈴木委員のおっしゃるとおり、下の地域であっても交通の不便な場所があるのは承知しております。今回循環バスの運行を計画しております。そういったところとの兼ね合いと結びつきをつけ</p>

	<p>ていきながら交通体系を整備していくということが最終的な方向性というふうになるかと思っておりますので、また担当課のほうにご相談いただく中でやっていただければ一番いいのかなと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
山口委員	<p>最後に1つだけ。時間もありませんので、今日せつかく大勢の傍聴に来られている方がおられますので、この方たちからもご意見がある方から何かいただきたいと思うのですが、よろしいでしょうか。</p>
司会	<p>今山口委員からそのような提案がございましたが、各委員の方はそれについてご異議等ございますでしょうか。本来でしたらここは委員の方々だけが発言をするということになるかと思っておりますので、公開ですけれども、意見まではということはあるかと思ひますが、意見を言ってもいいという方、挙手をしていただければと思ひます。わかりました。本当に申し訳ないのですが、そういう意味で、またご意見等は事務局に直接言っていただければと思ひます。</p> <p>それでは、総括としまして、伊豆原委員からお願ひいたします。</p>
伊豆原委員	<p>委員の皆さんからいいご意見をたくさんいただきました。</p> <p>最後にお願ひですが、昨年11月27日に新しい改正された地域公共交通活性化再生法の施行が出てまいりました。その中では実際には地域の資源を総動員して、何とか公共交通で皆さんの足を確保していこうではないか、ご利用いただけるような仕組みを作ろうじゃないか、こういう提案だと思ひます。そういう意味では、昨年作っていただいた網形成計画の中で評価、PDCAというところがちゃんとうたってあるわけです。先ほど現在の公共交通の状況のチェックもやらなければ、電車とバスの連携を考えなければ、こういうご指摘がありました。そういうのも含めてどういう方向に持っていくか。PDCAをしっかり回すということがすごく大切だと思ひます。</p> <p>そういう意味で、今日はまだ1月ですが、3月、それから来年度に向かってどういう形でチェックをして、改善策を作って、実行していくか、こういうところをぜひ皆さんのご意見をいただきながらやっていくことになるので、この地域公共交通会議の役割はすごく大きいものだと思ひます。そういう意味で、年何回開いていただくかわかりませんが、そういうスケジュールを含めてしっかり事務局のほうでチェックをしながら提案していただいて、委員の皆さんのご意見をいただくという仕組みをどんどん進めていただけたらと思ひますので、よろしくお願ひします。以上です。</p>
司会	<p>ありがとうございました。以上ですべての議事は終了しました。</p>

5 閉 会

(以上)